

6年1組 総合的な学習の時間学習指導案

授業者 宮野 広光

授業② 6年1組教室

1 単元名 尾張町商店街のNice Guy

2 小単元のねらい

尾張町商店街の現状や特色について調べ、活性化に向けた様々な取り組みをすることを通して、尾張町商店街の魅力や商店街で働く人、商店街を利用する人の思いや願いに気付き、多様な方法で情報を収集、整理、分析しながら、尾張町商店街を活性化するための方法を粘り強く考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができる。

3 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①商店街で働く人や仲間の話を反応しながら聞き、自分の考えと比べながら相手の思いを理解している。(聞く力)	①商店街の人の思いやまちの様子を比べながら、理想の姿を思い描き、確かめたいことや課題を見いだしている。 (課題を発見する力) ②インタビューや観察を通して得た情報を整理し、体験や意見の共通点・相違点を見つけながら多面的に考えている。 (情報を収集・整理・分析する力)	②尾張町商店街のよさを伝えるために、自分たちにできる方法を考え、失敗を恐れずに試行錯誤している。(挑戦心) ③活動をふり返り、できたことや課題をもとに次の探究や生活に生かそうとしている。 (向上心)

4 指導にあたって

(1) 教材観

尾張町商店街の歴史は古く、その始まりは江戸時代に遡る。前田利家入城の際、利家生誕の地である尾張(現在の名古屋市中川区)から御用商人を呼び寄せ、居住地としたことから尾張町と名付けられた。江戸時代には米仲買商を中心に数多くの店が軒を連ね、金沢経済の中心地として発展した。現在でも江戸や明治の時代に建てられた伝統的な商家が多く残り、ひがし茶屋街と近江町市場の間という好立地にありながら、落ち着いた雰囲気をもつ商店街である。町家を改装した飲食店や菓子店なども増え、歴史的景観と新しい文化が調和する地域である。

一方で、かつてのにぎわいが薄れ、空き店舗やテナント募集の張り紙も見られるようになっている。観光客は訪れるものの、地元客の姿は少なく、商店街の中でも商店街のこれからについての考え方に違いがある。そうした現状の中でも、働く人々は自らの商いに誇りをもち、伝統を受け継ぎながらも新しい挑戦を続けている。また、来訪者との関わりを大切にする温かさや、人と人とのつながりを重んじる雰囲気があり、そうした“人”の姿こそが尾張町商店街の大きな魅力である。

このように、尾張町商店街は「歴史と現代」「伝統と革新」「静けさとにぎわい」といった多様な側面をもつ地域である。児童が実際に商店街に出向き、働く人々に出会い、その思いや願いに耳を傾けることを通して、地域の魅力や人の温かさを実感できる教材である。

この教材を通して、児童は“人”を通して地域を理解しようとする過程の中で、「聞く力」「課題を発見

する力」「情報を収集・整理・分析する力」を育てることができる。また、試行錯誤を繰り返しながら自分の考えを見直し、新たな問いをもって行動する「挑戦心」「向上心」も育まれる。尾張町商店街を舞台に、人との関わりや学びを重ねながら、地域の魅力を自分ごととして再発見していくことができる教材と言える。

（２）児童観

本年度の児童は、昨年度の６年生が同じ教材で学習していたことから、尾張町商店街の名前を聞いたことがある児童は多いものの、実際に場所を訪れた経験がある児童は少なく、商店街そのものについて詳しく知っている児童はほとんどいない。住んでいる地域に商店街があまり存在しないこともあり、尾張町商店街に対する具体的なイメージをもつ児童は少数である。

一学期の学習では、尾張町商店街の方から「昨年も協力してもらって評判が良かったので、今年も協力してほしい」という依頼を受け、商店街の夏祭り（あんやと祭り）に出店をした。「みんなが楽しんで、尾張町商店街のことを知ってもらおう」というめあてをもって、児童は射的やクイズラリーを企画・運営した。

挑戦心については、昨年度の活動を引き継ぐ形で学習を進めたことから、一定の目的意識はもっているものの、「お願いされたから出店する」という受け身の姿勢が見られた。活動中も、自分たちの思いを強くもって取り組む児童とそうでない児童との差が見られ、学級全体としての主体的な挑戦にはつながっていない。活動の意味や目的を自ら問い直し、より良い方法を探ろうとする姿勢は不十分である。

課題を発見する力については、あんやと祭りを終えた後のふりかえりで、「射的は多くの人に楽しんでもらえたが、クイズラリーはあまりやってもらえなかった。」という意見が多く聞かれた。そのことから、「楽しんでもらうことはできたが、尾張町商店街について知ってもらうことには十分つながらなかった」と児童自身が課題を感じ始めている。活動を通して、自分たちの取り組みを省察し、目的と結果のずれに気付く姿が見られるようになってきており、今後は、自ら問いを立て、課題を解決するための次の行動を構想できるようにしていくことが求められる。

情報を収集・整理・分析する力については、昨年度の取組の概要を知っていたことに加え、今年度も商店街の方からの依頼を受けて活動したことにより、昨年度との違いや共通点を意識する姿が見られた。活動を通して得た経験をもとに、どのような工夫が必要だったか、なぜうまくいかなかったかを振り返るなど、情報を整理・比較しながら考える姿勢が芽生えている。一方で、自分たちの活動をさらに客観的に分析し、得られた情報をもとに次の活動へ生かす力については十分ではない。

（３）指導観

本小単元では、まず、尾張町商店街で働く人と触れ合うために「商人を探せ」という活動を設定する。商店街で働く３名の方を紹介してもらい、写真を手がかりに商人を探し出して直接話を聞くもので、紹介された３名に会えたら３ポイント、それ以外の人に話を聞くと１ポイントを得られるというルールで行う。その際、一学期のあんやと祭りの出店活動などで、目的を共有しながら試行錯誤を重ねてきた経験を基盤に、相手の視点から生まれた問いをもとに「誰に、何を、どのように聞くか」を仲間と話し合い、自ら次の行動を提案する。「商人を探せ」は二度行うことで、一度目の活動で感じたことや改善点を二度目に生かすことができ、自分たちの学びをよりよいものにしようとする意欲をもって、次の一步を計画し実行する挑戦心を育てていきたい（挑戦心）。

また、活動を振り返る中で、これまでの経験や仲間の意見、そして商店街の方の話をもとに情報を整理・分析しながら、自分たちの活動の意味を多面的に捉えられるようにする。社会科での資料読み取りや学活での振り返り整理を通して、「事実」と「意見」を区別して考える力を身につけてきたことを背景

に、自分の体験、仲間の意見、商店街の方の思いを区別しながら整理し、関連づけて考えることで、次に必要な情報を見極めていく姿を期待する（情報を収集・整理・分析する力）。

本時は、これまでの活動をふり返り、今後の探究の見通しをもつ時間である。二度の「商人をさがせ」を通して、人と出会うことの楽しさや、尾張町商店街で働く人々の温かさに気付いた児童が、これからの学習に向けて「尾張町商店街がどのようなになっていけばよいか」という理想の姿を思い描くことがねらいである。その際、道徳科の学習や国語科「みんなで楽しく過ごすために」の学習で身に付けた「相手の立場に立って考える」という方法を発揮するのではないかと考える。自分たちが感じた楽しさを、商店街で働く人の立場から捉え直しながら商店街のめざすべき理想を考えることで、「自分たちの活動は相手にとってどんな意味があったのだろうか」と想像するようになる。さらに、実際に商店街の方に話を聞くことで、人と出会う活動が自分たちにとっても商店街の人にとっても互いによさのある関わりであることに気付き、「人を通して尾張町商店街を知る」という次の探究の方向を見い出していくことを期待している（課題を発見する力）。

5 小単元計画（総時数 28 時間）

時	主な学習の流れ	★9つの資質能力の育成に関わる手立て	評価
1～3	○「あんやと祭り」はどうだったかな。 ・多くの人に射的を楽しんでもらえた。 ・尾張町商店街のことはあまり知ってもらえてなさそうだ。 ・お家の人に聞き取りをしたら、楽しかったけれど、尾張町商店街のことはあまり知ることはできていないと言っていた。 ・自分たちも尾張町商店街のことをあまり知らないな。	★あんやと祭りの活動をふり返る際に、成果と課題を整理する視点をもたせることで、児童が自分たちの活動を客観的に見つめ、「商店街のことをあまり知らない」という課題に気付き、次の学習への見通しをもてるようにする。 （課題を発見する力）	思②
	「商人を探せ」をして、尾張町商店街のことをもっと知ろう		
4～7	○「商人を探せ」でどんな人が見つかるかな。 ・自分たちも尾張町商店街のことをもっと知りたいな。 ・村松さんに紹介してもらった人を探しに出かけよう。 ・どんなことを質問しようかな。	★事前にインタビューで聞きたいことや質問の仕方を考えさせ、目的をもって活動に臨ませることで、相手の思いや考えを受け止めながら質問をつなげ、商店街のよさに気付けるようにする。（聞く力）	知①
8～10	○「商人を探せ」はどうだったかな。 ・質問をするのがドキドキしたよ。 ・ターゲットの3人を全員見付けられた。 ・誰も見つけられなかったよ。 ・またやりたいな。 ・次はどんな活動にしようかな。 ・せっかく行くのなら、いろんな人に話を	★「商人を探せ」での活動をふり返り、うまくいった点や課題を整理させることで、次の活動での工夫点を見付け、よりよい聞き方や関わり方を考えられるようにする。 （向上心）	主③

	聞きたいな。 ・もう会った人からは違う情報を聞き出したいな。 ・みんなはどんな情報を聞き出したのだろう。		
11～12	○みんなはどんな情報をもっているかな。 ・年齢や家族構成、商売を始めたきっかけなど、人それぞれだね。 ・若い人もいれば、何代も続いているお店もあるんだ。 ・同じ商店街でも、売っているものや工夫の仕方が全然ちがうね。 ・お店の中に昔からの工夫や新しい工夫があるんだね。 ・商店街の人たちは、お互いのことをよく知っている感じがする。 ・まちのことを思っていてがんばっている人が多いと思った。	★「商人を探せ」で得た情報を「プロフィール」「お店や商店街について」「その他」の3つの観点で整理し、グループで共有することで、仲間の視点から共通点や違いを見つけ、商店街を多面的にとらえられるようにする。 (情報を収集・整理・分析する力)	思①
13～16	○もう一度「商人を探せ」に出かけるとどんな発見があるかな。 ・前よりもスムーズに質問できた。 ・一度会った人が覚えてくれていてうれしかった。 ・最初よりも深い話が聞けた気がする。 ・相手の話を最後まで聞こうと意識した。 ・一回目よりいろんな人に話を聞けて、もっと尾張町商店街のことがわかったよ。 ・新しい発見があって、また行ってみたいと思った。	★1回目の活動のふり返りをともに、質問内容や聞き方を具体的に検討させてから出かけることで、相手の思いや願いをより深く理解できるようにする。 (聞く力)	知①
17～19 (本時)	○「商人を探せ」をふり返ろう。今後の活動はどうしたいかな。 ・活動が楽しいと感じたのはなぜかな。 ・人と話すのが楽しかったんだろう。 ・自分たちは楽しかったけど、商店街の人はどう感じているのだろう。 ・商店街の人たちも喜んでくれていそう。 ・「人」を通して商店街を知るの面白いから、これからも続けていきたい。 ・商店街の人たちのことをもっと知りたい、もっと知ってもらいたいな。	★2回の活動を比べながらふり返らせ、「人に会いに行くことの楽しさ」に気付くとともに、商店街の人の立場に立って考える視点をもたせ、今後の探究につながる課題を見い出せるようにする。 (課題を発見する力)	思①

20～27	○尾張町商店街の人をもっと知る、知ってもらうにはどうしたらいいかな。 ・これまでに聞いた話をまとめて「尾張町の人図鑑」を作りたい。 ・お店の人の思いを紹介するポスターをつくって掲示したい。 ・まちの人や観光客に、尾張町商店街の魅力を伝えるマップをつくりたい。 ・自分たちが感じたあたたかさを、写真やインタビュー文にまとめたい。 ・発表会や展示会をして、尾張町商店街の人たちにも見てもらいたい。	★尾張町商店街の人や魅力をより多くの人に伝える方法を構想させ、試行錯誤を重ねながら表現を工夫することで、新しい方法に挑戦する意欲を高めるようにする。(挑戦心)	主②
28	○二学期の学習をふり返ろう。三学期はどんな活動をしたかな。 ・尾張町商店街の人の思いやあたたかさを伝えることができた。 ・三学期は、自分たちにできることで尾張町商店街を盛り上げたい。	★二学期の学習全体をふり返らせ、できたことや課題を整理することで、自分の成長を実感し、次の学習や生活に生かそうとする意欲を高めるようにする。(向上心)	主③

6 本時の学習

(1) 本時のねらい

「商人を探せ」をふり返り、理想の姿を思い描くことで、今後の活動の見通しをもつことができる。

【思考力、判断力、表現力等】

(2) 学習の展開（本時は試行の場面）

時	主な学習活動と児童の思考の流れ ○教師の発問 ・ 予想される児童の思考	・指導 ◎評価 ★9つの資質能力の育成に関わる手立て
5	1. 課題をつかむ ・ 商人を探せ、とても楽しかったな。 ・ この活動をこれからの尾張町商店街とのかかわりに生かせないかな。 < 商人を探せをふり返って、今後の学習の見通しをもとう >	
15	2. グループで活動の「楽しさ」をふり返る ○何が楽しかったかな。 ・ ポイントを稼ぐというゲーム性が楽しかったな。 ・ 「商人を探せ」の楽しさは人に会って話をする事だよ。 ・ 入りづらい店に入れたり、話せない人と話せたりするのが「商人を探せ」のよさだよ。 ・ 話をしてみることで尾張町商店街のことをもっと知ることができ、また行きたくなるよ。 ・ 人が商店街の魅力でもあるのだな。 ○これから尾張町商店街がどうなっていくといいかな。 理想とする姿を思い描くには、どんな方法が使えるかな。 ・ 相手のことを考えるといいよ。	・ 何が楽しかったかを考えさせることで、人に出会う活動のよさに気付かせる。 ★商店街の理想とする姿を問うことで、これまでの学習方法を転用し、試行できるようにする。
20	3. 商店街の人たちにとって、どんな活動なのか考える ・ 話を真剣に聞いてくれたから楽しんでくれているかな。 ・ 写真を撮影など協力してくれたから好意的なのでは？ ・ 実際のところはどうかだろう？聞いてみたいな。 ○村松さんはどう感じているのかな。 ・ 商店街の人たちも楽しんでくれていたのだ。 ・ お客さんも楽しめるし、商店街の人も楽しめるってとてもよい活動だな。 ・ 商人に会いに来る人が多く来る商店街になったらいいな。	★これまで獲得した学習方法を想起させることで、児童が「課題を発見する力」を発揮できるようにする。 ・ 村松さんに商店街の人からの立場で話をしてもらうことで、自分たちの活動のよさが商店街の人にとっても価値があることに気付くことができるようにする。
5	4. 学習をまとめ、ふり返る ・ 理想とする姿を思い描くときに、「相手の気持ちを考える」ことが使えた。 ・ 国語でも英語でも、総合でも使えたよ。 「人」が尾張町商店街の魅力だな。商人に会いに来る人がたくさん来る商店街になったらいいな。	◎「商人を探せ」をふり返り、理想の姿を思い描くことで、今後の活動の見通しをもっている。 【思考・判断・表現】 （児童の様子・ふりかえり等）